

令和5年度 西米良村立 村所小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン 地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、児童が自分の成長を実感できる教育を学校、家庭、地域が一体となって推進する。

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て	自己評価			学校関係者評価		改善策等
			評価	成果と課題	成果指標	評価	意見	
1 確かな学力の定着	(1) 日常的な授業改善	① <b>学力テスト結果分析</b> から、本校に求められている力（情報を整理・選択する力、論理的に説明する力など）を意識して授業する。 ※「令和4・5年度 各学年課題による対策表」の活用 ② 「西米良授業スタンダードモデル」、「西米良授業チェック表」を授業の根幹に、定期的な教師の自己評価を実施し授業改善に努める。 ③ 授業では、 <b>補充・発展の時間の設定と毎時の目標達成</b> に努める。 ④ 下位層の児童の理解度を高めるため、 <b>中学校兼務講師（4年算数）</b> と連携し少人数指導など学習形態を工夫する。また、教師の専門性を生かす <b>一部教科担任制（交換授業）</b> を試行する。	3. 0	①各学年の課題を分析し、参観日に保護者に伝えとともに、日々の授業の中で意識して取り組んできた。 ②③「本時目標の達成」「補充・発展の時間確保」のために、主観研究とリンクさせて、授業改善に努めている。特に本年度は、コネクト学習を中心に研究を重ね、実践に取り組むことができた。 ④担任と兼務講師で役割分担を行い、下位層の児童の個別指導に努めている。一部教科担任制（交換授業）については、来年度に向けての課題としたい。	※児童「先生は、わかりやすく教えてくれますか」◎76%、○24% ※児童「宿題を忘れずにしていますか」◎69%、○31%	3	◎今後も、個別指導を充実させて、学力向上を行ってほしい。	①過去・類似問題を定期的に解かせて問題に慣れさせる。また、情報を整理して文字数制限で文章化させる。授業では、教師の説明を減らし、子どものアウトプットの場を確保する。 ②③次年度もコネクト学習の共通実践を図り、補充・発展の時間確保に努める。 ④兼務教員との指導方法の共有、役割分担を明確にし、下位層の底上げを図っていきたい。
	(2) ICTの効果的活用	① 視覚的でわかりやすい授業を実施するとともに、1単位時間におけるICTの効率的・効果的な活用のもと、確実な学びの定着に努める。 ② ICT支援員の活用及び教諭同士のOJTを推進し、教諭のICTスキルの向上を図る。 ③ 小中連携した研究における共通理解・共通実践を図る。（県ICT活用先進校の指定） ④ 個別最適化の学習に向け、授業や家庭でのAIドリルの積極的・効果的な活用を図る。欠席児童への学びを保障するオンライン授業を行う。 ※AIドリルの時間（朝の活動、週4回）	3. 3	①6月に5年が代表授業をしたり、研究公開で、分かりやすい授業実践を行ったりしながら、研修を深めてきた。 ②ICTスキルの向上については、研究主任を中心として2～3年目の教員が中心となり、OJTタイムで教え合ったりすることで、スキルの向上に繋げることができた。 ③それぞれの授業を参観したり、研究公開前に小中合同で模擬授業を行ったりしながら、実践的に研究を推進してきた。 ④習熟のために授業の後半や朝自習の時間、月曜日の家庭学習にAIドリル・AI音読を位置付け取り組んできた。また、今年度はコネクト学習にも取り組んできた。その他、児童が計画した文字入力大会も実施することができた。	※児童「タブレットは勉強の役に立っていますか」◎70%、○30% ※保護者「タブレットなどの機器を活用しながら、教師は分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。」◎65%、○31%、△4%	3	◎ICT活用は、これからの時代に必要なものである。今後も家庭と学校で連携しながら、児童の指導に生かしてほしい。	①②③今後も、ICTを活用した効果的でわかりやすい授業改善に努める。 ④発達段階に応じた指導をもとに日常化を図り、確実な学びの定着を図る。 ④今後も、上級生の活用や児童同士の教え合いをさらに充実させる。
	(3) 望ましい学習態度を身に付けるための支援	① 学習指導部提案による共通実践事項の徹底を図る。（学習態度、学習用具、教室設営、板書、「声のものさし」等） ② <b>家庭・保育園・中学校及び関係機関と連携</b> し、個に応じた指導を行う。	2. 9	①年間を通して、児童が落ち着いて学習ができるようにするために、学習指導部提案の共通実践事項を全体で共通理解し、授業を行うことができた。 ②ふたば園、西米良中学校とも情報をやりとりすると共に、配慮の必要な児童の指導に当たっては、関係機関とも連携して指導に当たった。また、担任は学級通信、電話等を利用して、家庭との連携を密にしながら指導を行うことができた。	※児童「先生の話を聞いていますか」◎47%、○51%、△2% ※保護者「家庭では、望ましい生活習慣が身に付いている。」◎9%、○73%、△18%	3	◎学校の子どもの様子を見ると、学習習慣定着のための手立てが十分に繋がっている。学力の向上に繋がることを期待したい。	①②③年度当初に、学習の習慣付けを共通実践し、しっかりと定着させることが必要である。特に「人の話を聴く」習慣を家庭と連携し、SWPBSでの実践事項に取り入れることを検討する。
	(4) 表現力の向上及び場の設定	① 授業中における対話的な学習の充実と効果的な発問の工夫改善を図る。（「つぶやきによる発表」、「挙手させる発表」、「意図的指名」により全児童が発表） ② <b>校内での発表及び外部（他校や地域のとの交流）の方への発表機会や場の設定</b> により、各自の表現力を高める。	2. 9	①ペアやグループで対話的・協働的な学習に心掛けると共に、教師の発問も指示や発問の精選に努めてきた。 ②学年間や全校での交流を取り入れ、発表する機会や場を設けていった。イキイキ文化祭では、学年や個に応じた発表内容で指導を行い、本番でも児童が力を発揮した。また、給食時間の校内放送「発表ひろば」「火曜祭」等、発表の場も設けて、発表の機会を積極的にとってきた。	①※児童「友だちと話し合っていて勉強していますか」◎53%、○29%、△14%、×4%	3	◎メラリンピックやイキイキ文化祭などで、子ども達の素晴らしい発表を見ることができた。	①②今後も「発問・指示」を意識して指導を行う。また、日々の学級での授業はもとより、集会、イキイキ文化祭、他校とのオンライン交流、地域の方との授業など様々な発表の機会を通して、表現力向上に努めていきたい。
	(5) 読書指導	① <b>学校図書館の積極的な活用及び環境整備</b> を行う。 ② 学校と家庭をつなぐ「 <b>読書手帳</b> 」を作成・活用し、読書量の個人差を少なくする。 ③ 毎週木曜日の朝の時間「 <b>読書の日</b> 」、毎月23日の「 <b>あさよむ（親子読書）の日</b> 」及び「 <b>あさよむ号巡回</b> 」の利用など、 <b>全校統一した実施</b> により、読書意欲の向上を図る。	2. 7	①各種予算を活用して新刊図書を購入し、児童の読書意欲を高めてきた。三財病院からの寄付により、たくさんの本を購入できた。また、図書委員会によるイベント（くじ引き）、読み聞かせを行い、読書量の向上に力を入れてきた。 ②タブレット上で読書の記録を活用し、担任が把握しやすくなっている。児童それぞれの読書量には個人差があるが、今後も継続的に、個別の働きかけを行っていききたい。 ③「読書の日」は計画的に取り組んでおり、あさよむ号の貸出（学級文庫）も積極的にやってきた。	※保護者「家庭の日や本の貸出によって、読書への興味・関心は高まっている。」◎26%、○48%、△13%、×13%	3	◎これからもよりたくさんの方に親しみ、知識を広げる機会にしてほしい。	①古くなった図書の廃棄を進めると共に、長期休業中に全職員で、本の精選や図書室の片付け・整備を行うっていく必要がある。 ②③今後もさらに家庭と連携した具体的な取組が必要である。
	(6) 外国語活動・外国語の指導	① 3～6年生においては、 <b>外国語専科講師</b> による全体指導及び <b>ALT</b> との連携に努め、指導の充実を図る。 ② 1～2年生においては、 <b>理科専科教諭がALTとの連携した授業を行い</b> 、苦手な児童への働きかけや下位層の学力向上に努めるとともに、外国語に親しむ態度を培う。 ③ 評価テスト（5・6年）による学習内容の定着及び指導の充実を図る。	2. 9	①3～6年生については、外国語専科の専門性を生かした指導を日々取り入れてきた。 ②1～2年生においても、中学校英語の免許を持つ担当が指導にあたり、児童が楽しく英語活動を行うことができた。 ③評価テストを定期的に実施し、定着を確認し指導に生かしている。	※児童「外国語の勉強は好きですか」◎30%、○57%、△8%、×5%	3	◎これからの社会で、より必要になってくるものである。	①②さらに関心意欲を高めるために、児童の意欲や学力状況を確認し、授業改善を図る。
(1) 生徒指導及びいじめ・不登校の未然防止と早期対応	① 生徒指導の三機能（自己決定の場と自己存在感を与え、共感的人間関係を構築）を生かした学級経営や授業改善に向けて、「自己指導能力を育成を目指した授業づくりの視点表」を定期的に活用及び自己評価し、意識付けを図る。 ② 常在危機意識をもち、いじめの未然防止及び早期発見に向けた組織的な取組に努める。（ <b>教育相談、アンケート調査、いじめ不登校対策委員会、家庭や児童クラブ、メラスポ、スポ少等との連携強化と情報共有</b> ） ③ 「いじめ防止基本方針」に基づいた共通実践の徹底を図る。	2. 9	①常に生徒指導の三機能を念頭において学級経営を行うように、先生方が意識して児童に接するようになってきている。 ②必要に応じて、教頭や生徒指導主事、各担任が児童クラブへ出向き、直接、児童クラブの先生方と情報を共有し、対応に当たってきた。 ③いじめ・不登校等につながる事案についても、職員で共通理解しながら、本方針に基づき対応してきている。	※児童「学校は楽しいですか」◎57%、○43% ※保護者「学校や学級での取組によって、いじめや不登校の早期発見、未然防止につながっている。」◎46%、○46%、△8%	3	◎村民としても、子ども達を見守る大人として、生徒指導の充実に力を尽くしたい。	①②③教育活動全体をとおして、相手を思いやる心の育成に努める。いじめや不登校等問題においては、常在危機意識の向上にさらに努め、家庭との連携を強化する。また児童クラブ・メラスポ・スポ少等との情報の共有を図り、早期発見・早期解決に努める。	

令和5年度 西米良村立 村所小学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン 地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、児童が自分の成長を実感できる教育を学校、家庭、地域が一体となって推進する。

【評価基準 4段階評価 4…期待以上 3…ほぼ期待通り 2…やや期待を下回る 1…改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て	自己評価			学校関係者評価		改善策等
			評価	成果と課題	成果指標	評価	意見	
2 豊かな心（自己指導能力）の育成	(2) 個のよさを認め、個に適切な支援の実施	① スクールワイドPBS（児童のできた！を引き出す積極的な行動支援の推進）の考え方に基いた集団や個への関わり方及び校内支援体制の充実を図る。 ② 特別支援教育の視点を踏まえた個別指導の充実を図る。 ③ 「個別の指導計画」や家庭と連携した「個別の教育支援計画」の整理と活用を図る。	3. 1	①実践協力校を担い、担当である宮崎大学の准教諭の指導を仰ぎながら、連携して研究実践を行ってきた。 ②各学級に在籍する個別に配慮の必要な児童について、その都度、協議しながら指導を行ってきた。また、児湯るびなす支援学校教諭やスクールカウンセラーからの助言を、日々の児童の指導に役立っている。 ③「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」については、長期休業中に時間を設け、作成・整理している。年度末に向けて、整備したい。	※児童「先生からよくほめられますか」◎ 39%、○47%、△12%、×2%	4	○子ども一人ひとりのよさを伸ばすと共に、個別に対応して様々な問題を解決してほしい。	①②③④配慮の必要な児童への対応について、今後も共通理解・共通実践が必要である。「個別の指導計画」等の活用を図り、今後も保護者・関係機関との連携を密にしていきたい。
	(3) 本生活指導	① 生活指導部提案による生徒指導年間計画による指導の徹底（習慣形成、児童理解、教育相談、安全指導、環境美化、勤労奉仕）を図る。 ② 「村所小学校よいこの1日」に基づいた具体的な指導の充実を図る。 ③ 保小中一貫教育連携会議による「あいさつ運動」における主体的な取組と評価（児童、保護者、地域）に努める。 ※「プラスワンあいさつ運動」の徹底	3. 0	①②地区集会やアンケート調査等、日々の学校生活全般でアンテナを張り巡らせながら生徒指導面の指導を行い、児童が落ち着いて学校生活を送ることができるようにしてきた。 ③生活委員会の児童が、登校してきた登校班の子ども達のあいさつの様子を見届けると共に、プラスワンあいさつ運動も日頃から声かけを行ってきた。また、保小中での取組として、メディアコントロールについて実態に応じた取組を進めてきた。	※児童「おうちの外や登下校中、会った人にあいさつをしますか」◎ 59%、○35% △6%	4	○登下校中に子どもに出会ったときに、こちらからも声かけを行いたい。	①②③あいさつ運動へのさらなる意欲向上に努めていきたい。 ②「村所小学校よいこの1日」について、定期的に自己評価など振り返りが必要である。
	(4) 安全教育の充実	① 「自分の命は自分で守る」「気付き考え行動する」の合言葉による意識付けと集会での全体指導、日常の学級での具体的な指導に努める。 ② 関係機関や地域と連携した安全教育及び防災教育の充実を図る。（警察や役場、県土木事務所、消防団等）	3. 0	①台風等の事前指導や交通安全など様々な機会を通して、「自分の命を守る」「考えて行動する」といった生活習慣を指導してきた。 ②村内外の諸関係機関に協力いただきながら、安全・防災教育の充実を努めてきた。	※児童「道路では車をよく見て、歩いていますか」◎71%、○23%、△6%	4	○先生方の継続的な安全指導が大切である。	①②警察や役場、県土木事務所等との連携をより深く、常在危機意識をもって指導にあたる。
	(5) 児童の主体性を生かした活動の充実	① 児童の上級生のリーダーシップを図るとともに、児童に達成感を味わわせる日常的な取組の充実を図る。（登校班、清掃、係活動、朝ボラなど） ② 縦のつながりのある活動や児童の企画力・主体性を生かした各委員会での取組の充実を図る。※「みんなでつくる学校」の具現化を目指す。	3. 1	①清掃指導では、全職員で見回り称賛する機会を設けてきた。 ②縦割りグループによる体力作りの活動や清掃活動、メラリンピックでの取組等、上級生が主体となって活動する場を多く設定してきた。	①※6年「人が困っているときは、進んで助けていますか。」◎50%、○33%、△17%	4	○様々な縦のつながりのある活動を、子ども達に主体性に生かしてほしい。	①上学年がリーダー性を発揮できる場を、幅広く設定していきたい。 ②行事や委員会、ICTの時間など、上級生を中心に「みんなでつくる学校」への意識を高める。
	(1) 規則正しい生活の指導	① 学校保健委員会を核に家庭と連携した取組（メディアや食生活や生活習慣など）に努める。 ② 学校歯科医や家庭と連携した歯磨き指導の充実（むし歯治療率向上）に努める。 ③ 養護教諭によるチームティーチングによる授業を実施するとともに、今後も家庭と連携し日々のきめ細かな保健指導に努める。 ④ 新型コロナウイルス感染拡大防止による感染症対策に努める。	3. 1	①7月の小中合同家庭教育学級開級式で県青少年育成県民会議の方を招聘し、メディア利用の影響、問題点等についての講義を実施した。 ②学校歯科医による歯科指導を実施した。 ③性教育や宿泊学習事前指導等、養護教諭も授業を積極的に行ったり、保健指導に努めたりしてきた。 ④新型コロナウイルス・インフルエンザといった感染症対策として、継続的に手洗い・うがい等について指導を継続し、体調管理に努めてきた。	※保護者「保健指導や健康診断、健康だより等による家庭との連携によって、児童の保健・安全への関心を高めることにつながっている。」◎57%、○43%	4	○今後も感染症対策を継続し、児童の健康維持を図ってほしい。	②③養護教諭によるTTによる授業を実施するとともに、今後も家庭と連携し日々のきめ細かな保健指導に努める。また、今後も継続的に新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染拡大防止による感染症対策を徹底する。
3 たくましく生活の育（自己健康管理）	(2) 食育の推進	① 地産地消や創意工夫ある献立づくりに努めるとともに、残食率低下を目指した給食指導の充実を図る。 ② 栄養教諭とのチームティーチングによる授業を実施し、食への関心を高めるとともに、はしの持ち方など食事マナーの向上に努める。	3. 3	①栄養教諭が各学級の給食量を調査し、日頃の給食の量をチェックしてきた。 ②それぞれの学年において、栄養教諭と担任で授業を行い、食育指導を積極的に進めることができた。	※保護者「西米良の食材を取り入れ、メニューの工夫や、給食だよりの発行、掲示物による啓発等によって、望ましい食習慣の育成につながっている。」◎74%、○26%	4	○地産地消を積極的に取り入れてもらい、村民としてもうれしく思う。	①②地産地消のパラエティー豊かな献立を継続的に取り入れ、児童の食への関心やマナー意識の向上に努める。また、栄養教諭によるTTの授業等も継続して行う。
	(3) 基礎体力向上	① 立腰指導の徹底を図る。 ② 体力テストD E段階の割合の減少を目指し、「体力向上プラン」に基づいた教科体育の充実（一人一人の運動量を確保）を図る。 ※「握力」「長座体前屈」「ボール投げ」を教科学習及び日常運動の中で重点的に指導する。	3. 0	①毎時間の授業において、立腰に心掛けさせてきたが、今後も個に応じた指導の必要がある。 ②授業や体力向上の時間を利用し、指導に努めている。	※児童「運動をすることは好きですか」◎ 70%、○24%、△4%、×2%	4	○運動に意欲的に取り組む子ども達を育てて欲しい。	②③家庭と連携し、今後も運動の日常化を目指す具体的な取組が必要である。
	(1) 学校と地域・団体との連携強化	① ふたば園、中学校、関係団体等との連絡を密に行い、連携協働に努める。（PTA、公共機関、社会福祉協議会、学校運営協議会、学習支援ボランティア、社会教育関係団体、民生委員・児童委員、人権擁護委員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど） ② 地域の中の学校として、学校運営協議会による学校経営方針の承認及び協力支援の充実を図る。 ③ 豊富な地域資源を活かしたキャリア教育の充実 ※「ふるさと西米良学」の活用 ④ 教師の人権教育やコンプライアンス研修の充実を図る。	3. 1	①担当や管理職が、随時、連絡を取り合いながら情報共有に努めてきた。 ②学校運営協議会、学校保健委員会等の機会や学校便りを活用して、学校の経営方針を理解いただき、地域との連携協働に努めることができた。 ③ペロリ農園までの道路事情の改善により、順調に苗植え、収穫等の活動ができた。茶摘みや稲作体験（5・6年生）も行うことができた。 ④夏季・冬季休業中に研修を行った。職員不祥事などは、県から出されているコンプライアンス通信等を活用して、終礼などで随時、職員へ伝達している。	※保護者「教職員は、地域行事やPTA行事に積極的に参加し、交流や連携を図っている。」◎48%、○52%	4	○これからも関係機関とのつながりを大切にしながら、教育を推進してほしい。	①②③④外部機関との連携を継続すると共に、PTAや学校運営協議会、学習支援ボランティアなど連携・協働に努め、保護者の困り感への対応として、SSWやSC等の積極的活用を継続する。 ③地域人材を活用した授業を可能な限り取り入れる。「ふるさと西米良学」「キャリアパスポート」の充実を図る。 ④コンプライアンス意識を継続するように、これまでの取組をさらに充実させる。
(2) 家庭や地域への積極的な発信と共有	① 保護者・地域の方と積極的に関わるとともに、個人情報の取り扱いに注意し、情報発信・情報収集に努めていく。 ○ 村所小ホームページの充実 ※R3実績98,754件 ※R4実績206,000件 ※R5実績200,785件（R6.1月末現在） ○ 各通信の充実（学級・学校通信、生徒指導・保健・給食通信など） ② 「マチコミメール」の効果的活用	3. 1	①ホームページアクセス数はすでに200,000件を超えている。 R6.2.19 (222,389件) R5.2.8 (206,624件) ②「マチコミメール」については、災害時や緊急時など活用を図ることができた。	※保護者「学校だより（おがたま）、学級通信、通知表、学校のホームページなどの、学校から情報提供がなされている。」◎65%、○30%、△5%	4	○ホームページの更新を今後もお願いしたい。	①②③今後も、人権への配慮及び個人情報の取り扱いに注意しながら、HPや学校通信等で情報収集・発信に努めていく。	